

○第四號

何第號  
虎列刺病全治  
何大區何小區何町  
何番地  
何某  
出院之證  
年 月 日  
避病院

○第五號

品川避病院日表

計合	後午	前午	日		月		十年
			男	女	男	女	
							患
							者
							全
							快
							死
							亡
							減 増

警視本署避病院ニアル  
虎列刺病者ノ妻子等入  
院者願即届方

警視本署市ヶ谷向ヶ岡  
兩避病院ヲ廢ス

警視本署品川并緑町避  
病院當分ノ内第百二十六  
病院ノ所管トス

兵庫縣下ニ避病院建設  
ヲ許ス

東京警視本署達 第十年十月十二日  
避病院假規則中第十八條父母妻子兄弟タリトモ決シテ患者ニ接スルヲ許サスト有之候處父母妻子兄弟  
等看護ノ爲メ入院致度段懇願スルモノアラハ篤ト取調之上事情難止モノハ入院聞届ケ可申此旨相達候  
事  
但本人全快若シクハ死亡候共十日間ヲ過サレハ出院ハ難相成旨前以テ達シ置クヘキ事

東京警視本署布達 第十年十一月二十二日  
虎列刺避病院設立ノ儀甲第四十一號ヲ以テ及布達置候處右病症漸次消滅候ニ付差向市ヶ谷向岡兩避病  
院相廢候條此旨布達候事  
但萬一感染ノ者有之候ハハ緑町品川兩避病院ノ内へ入院セシムヘキ事

東京警視本署達 第十年十一月二十三日  
虎列刺病撲滅ニ付來ル二十三日迄ニ諸器具取纏メ閉院可致此旨相達候事

東京警視本署達 第十一年二月十三日  
品川并緑町避病院當分之内其院所管申付候條小使ヲ以テ交番監守爲致不都合無之様可取計此旨相達候  
事

内務省何十一年四月二十五日  
別紙寫ノ通兵庫縣ヨリ伺出取調候處尤ノ儀ニ有之元來避病院ノ儀ハ惡性傳染病ノタメ必要ナルハ勿論  
ニ候ハトモ昨年ノ如ク病毒侵入スルニ當リ忽卒ノ建設ニ係ルモノハ徒ニ其費用ヲ倍益シテ僅ニ其期ヲ  
過シハ既ニ破壊ニ屬シ不得止儀トハ申ナカラ其去來倏忽定リナキヲ以テ流行病豫防ニ於テハ實ニ要衝ノ地  
トス故ニ傳染病院ノ豫設無之ヲハ一朝突然他方ヨリ病毒ノ襲來スルニ當リ急劇ノ際處置當テ不得徒ニ

費用ヲ減消スルモ遂ニ防禦ノ機ヲ失シ該毒ヲシテ蔓延セシメ無數ノ生靈ヲ傷害スルニ至リ折角ノ盡力  
モ水泡ニ歸シ遺憾ノ事共不掛儀ニ付豫テ此設アルトキハ獨虎列刺ノミナラス寧扶斯赤痢其他惡性病ノ  
豫防完全可履行届ト存候ヘトモ未タ其邊ノ運ニ難至候右ノ次第ニ付兵庫縣ノ儀ハ申立ノ通昨年避病院ノ  
收入金其儘御下附相成候儀致度尤爾後修繕建替等ノ入費ハ該縣限リ適宜支辨可致旨可及指令積ニ有之  
候此段至急御裁可有之度候也

指令 十一年七月二日

伺ノ趣聞届候尤避病院收入金ハ稅外收入トシテ納付爲致更ニ金千八百圓府縣營繕費ノ内ヨリ可下渡候  
事

兵庫縣ヨリ内務省ヘ伺十一年二月二十七日  
避病院ノ儀ハ流行傳染性諸症ニテ必要用ナルハ勿論ニシテ豫設不致候テハ事急劇ニ際シ勢ヒ  
應當ノ處置ヲ施コスアハス之レカタメ多少病毒ヲ蔓延セシムルノ恐レナシト申シカモ其竣功ヲ待ツ  
月虎列刺病流行ノ初メニ當リ豫シメ此設クシテシキヨリ俄然建設ニ著手スルトイヘトモ其運搬治療及  
ニ暇アラス不得止日本形商船ヲ借受ク避病院トナシ海上ニ於テ患者ヲ治療スルニ至レリ其運搬治療及  
ヒ有難等ノ施爲ニオイト不便實ニ聲言スヘカラス可療癒ノ患者モ亦遂ニ救フヘカラスルノ域ニ陷ラシ  
ムルノ害ナキヲ保セス加之本年ノ如キハ該病殘毒再萌ノ虞實ニ少ナカラス依ツテ考案候處保存避病院  
ヲ建設シ四方板張ペンキヲ以テ之レヲ塗リ壁紙張等ヲ用ヒス緣側ニハ溝道ヲ作り其病室ヲ掃除スルニ  
便ナラシメ患者返院ノ際ニハ充分ノ消毒法ヲ施行シ以テ後來ニ保存スヘキ樣構造イダシ置度費用ノ儀  
ハ客歲虎列刺病流行ノ際患者入院料及ヒ消毒藥拂ヒ下ケ代價ニテ金一千八百圓餘上納スヘキ分有之  
付右金員悉皆諸入費トシテ御下渡相成度衛生上尤モ緊要ノ儀ニ付特別ヲ以テ至急御允許相成度此段相  
伺候也

但シ御許可ノ上ハ其構造ノ方法圖面トモ更ニ可相伺候也  
調査局議案十一年六月二十四日  
別紙内務省伺兵庫縣下傳染病院建築ノ儀大藏省ヘ御照會ノ末審案候處櫻陳ノ趣ハ相當ノ施設ト被存候  
間申請ノ通り御届相成然ル可ク裁尤モ右費用ノ儀ハ大藏省上答ノ趣モ有之候ニ付一應内務省ヘ照會  
及ヒ候處府縣營繕費ノ内ヨリ支出差支ヘ無之旨回答有之候間左ニ御指令案取調此段相伺候也

布告節錄 十二年六月二十七日 大政大臣三條實美署

虎列刺病豫防假規則別冊ノ通被定候此旨布告候事  
虎列刺病豫防假規則

虎列刺避病院建設法  
十二年八月布告第三十二  
號ヲ以テ更正候目ニ  
載ス  
十三年七月布告第三十四

號ヲ以テ傳染病豫防ノ爲  
メ避病院ヲ要スヘキトキ  
ハ内務卿ニ具狀シテ設立  
セシム

東京府深川區松代町ヘ  
虎列刺避病院ヲ設置ス  
十二年十二月東京府達甲  
第百二十一號ヲ以テ閉鎖ス

東京府南豐島郡東大久  
保村ニ虎列刺避病院ヲ  
設立ス  
十二年十月東京府布達甲  
第九十七號ヲ以テ閉鎖ス

東京府北豐島郡下駒込  
村ヘ虎列刺避病院ヲ設  
立ス  
十二年十月東京府布達甲  
第九十七號ヲ以テ閉鎖ス

第八條 避病院ハ成丈ケ人家隔絶ノ場所ニ建設シ其構造ハ極メテ輕易ヲ主トシ其大小員數ハ土地廣狹  
患者ノ多寡ヲ斟酌スヘシ  
第九條 避病院ハ輕症重症及ヒ恢復期ノ患者ヲ分チ置キ黃色ノ布ニ「コレラ」ノ三字ヲ墨記シタル標旗  
ヲ建テ其境界ニハ制止榜ヲ立テ嚴ニ外人ノ出入ヲ絶ツ可シ且該院ニ需用スル一切ノ物品ハ使丁ヲ定  
メテ之ヲ辨セシメ其使丁ハ病室ニ入り又病室汚染ノ物品ニ觸ルルヲ許サス  
但病者ノ近親見舞ノ爲メ避病院ニ入ランコトヲ願フモノハ其情實ヲ斟酌シテ之ヲ許可シ其外出ノ  
時ハ十分消毒法ヲ行フ可シ

東京府達 十二年八月十五日  
今般深川區北松代町三丁目十八番地ヘ虎列刺避病院設置本日ヨリ開院ニ付此旨布達候事

東京府布達 十二年八月二十七日  
南豐島郡東大久保村字百人町ニ虎列刺避病院設立本月二十七日午後一時開院相成候條此旨布達候事

東京警視本署達 十二年八月二十七日  
南豐島郡東大久保村字百人町ヘコレラ避病院設立本日ヨリ開院候段東京地方衛生會ヨリ通知越候條爲  
心得此旨相達候事

東京府布達 十二年九月九日  
北豐島郡下駒込村九百九十六番地ヘ虎列刺避病院建設本日開院相成候條此旨布達候事

東京警視本署達 十二年九月九日  
府下北豐島郡下駒込村九百九十六番地ヘ虎列刺避病院設立本月九日ヨリ開院候段東京地方衛生會ヨリ  
通知越候條爲心得此旨相達候事

東京府南品川宿東大久保村下駒込村避病院ヲ閉鎖ス

東京府布達 甲十二年九月十七日  
南品川宿東大久保村下駒込村ニ設置有之候虎列刺避病院本月十日限り閉鎖候條此旨布達候事  
東京警視本署達 乙十二年十月六日 郡區役所 戶長役場  
虎列刺病勢漸次消熄ノ景況ニ付大久保村駒込村品川洲崎臺場三箇所避病院本月十日限り閉鎖候段東京地方衛生會ヨリ通知有之候條爲心得此旨相達候事

東京府深川松代町虎列刺避病院ヲ閉鎖ス

東京府布達 甲十二年十二月一日  
深川虎列刺避病院昨三十日限り閉鎖候條此旨布達候事

朝鮮國釜山港ニ避病院設立ヲ許ス

大藏省へ達 十二年十二月二十二日  
別紙外務省上申朝鮮國釜山港虎列刺病流行ノ際避病院新築及豫防費用別途下渡ノ儀朱書ノ通及指令候條金額渡方可取計此旨相達候事

外務省上申 十二年十一月二十八日  
朝鮮國釜山港我人民居留地内へ本年七月ヨリ虎列刺病傳染候處居留人民凡千人内外有之加之出入ノ船不絶從泊致候ニ付不取敢豫防ノ爲絶影島へ消毒所取設候へ共既ニ患者日々相増候勢ニ付直ニ避病院新築專ラ豫防ニ盡力漸ク十月ニ到リ患者全ク撲滅及ヒ右費用別紙第一號ノ通ニ有之候右新築家屋ノ儀居留地外ニハ當今該病再發ノ徵候モ有之候ニ付其儘番入附置度段第二號ノ通管理官ヨリ申立無餘儀次第ニ付承届申候就テハ居留商民ヨリ豫防費ノ内へ納附願出候金額ハ右勘定帳中差繼ニ相立殘額別途御下渡和成度此段上申候也  
指令 十二年十二月二十二日  
上申ノ趣開届金二千五百五十圓八錢四釐在外公館經費臨時費増費トシテ下渡候條大藏省ヨリ可受取事  
調査局議案 十二年十二月十九日  
別紙外務省上申朝鮮國釜山港虎列刺病流行ノ際避病院新築及ヒ豫防費用等別途御下渡ノ儀大藏省答議ノ趣共審案候處具陳ノ趣無餘儀次第ニ付申請ノ通御開届右金二千五百五十圓八錢四釐ハ本年度在外公館經費臨時費増費トシテ御下付和成可然哉左案取調仰高裁候也

傳染病豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキトキハ内務卿ニ具狀シテ設立セシム

布告節錄 第三十四號 九月九日 大臣 權仁親王 署 (全文ハ後載ス)  
明治十二年八月第三十二號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事  
傳染病豫防規則  
第六條 虎列刺、赤痢、發疹室扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ地方官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルトキハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得  
但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ

東京府病院構内ニ傳染病室ヲ假設ス  
十四年七月東京府布達 甲第四十五號ヲ以テ病院ヲ廢止ス  
十四年二月東京府乙第三號ヲ以テ腸胃扶私赤痢實布達利亞痘瘡患者ノ入室ヲ許ス  
第三十四號ハ十三年七月布告スル所ナリ疾病ノ日ニ載ス

東京府達 乙十三年八月十八日 郡區役所 戶長役場 衛生委員  
東京府病院構内ニ傳染病室ヲ假設候條當分發疹室扶私ノ患者ニ限り入室セシメ外四病ノ儀ハ本年第三十四號公布第四條ニ依リ流行ノ勢盛ナルニ及ヒ更ニ達スヘシ此旨相達候事  
但區戶長ニ於テハ醫業ノ者へ告示スヘシ

東京府避病院并傳染病室事務手續  
十五年八月檢疫局達 第十號ヲ以テ廢止ス

避病院并傳染病室事務手續  
第一條 患者ヲ送り來ル時ハ送狀ヲ檢シテ之ヲ診察所ニ誘ヒ醫員診察ノ上入室セシムヘシ  
第二條 患者入院ノ節事務掛ニ於テ携帶品ヲ取調之ヲ帳簿ニ記入シ附添人或ハ檢疫掛ヲシテ之ニ檢印セシメ立會ノ上適宜ノ消毒法ヲ行フテ預リ置クヘシ  
第三條 患者恢復ニ赴クトキハ入浴セシメテ之ヲ恢復室ニ移シ愈々全治ト認ムル者ハ退院ノ手續ヲ爲

スヘシ

第四條 患者退院ノ節ハ直チニ其由ヲ親戚或ハ知音ニ報知シ所有品ハ更ニ消毒法ヲ行フテ之ヲ親戚又ハ本人ニ引渡シ受取證ヲ取置クヘシ

第五條 入院患者危篤ニ至ルトキハ速カニ其由ヲ親戚ハ知音ナキ者ニ報知スヘシ

第六條 入院患者死去スルトキハ死亡届ヲ添へ使送ヲ以テ親戚ニ報知シ二十四時間以内ニ埋葬證ヲ受取り來ラシムヘシ

第七條 死屍ハ速カニ屍室ニ移シ消毒藥ヲ灌キタル白衣ヲ被ヒ置キ親戚ノ來ルヲ待テ之ヲ示スヘシ但二十四時間ヲ經ルトキハ之ヲ棺ニ納ムヘシ

第八條 前條ノ場合ニ於テ旅客等府下ニ親戚ナキ者ハ病院ヨリ死亡届ヲ添へ患者發病地ノ區役所又ハ戸長役場へ通知シ埋葬免許證ヲ受取りテ火葬ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 區役所又ハ戸長役場ニ於テハ右死亡届ニ照シ速カニ埋葬免許證ヲ渡シ追テ其死亡届ヲ添へ本籍ニ通知スヘシ

第十條 虎列刺、發疹室扶私、及ヒ痘瘡ノ死屍ヲ火葬場或ハ埋葬場ニ送ルトキハ最寄警視分署へ照會シテ檢疫掛巡査ノ護送ヲ要求スヘシ

但腸室扶私、赤痢、實布埜利亞ノ死屍ハ親戚ニ引渡シテ尋常ノ墓地ニ埋葬セシムルヲ得

第十一條 第八條ノ手續ヲ以テ火葬セル遺骨ハ共葬墓地内へ假リニ埋葬セシメ追テ親戚等ヨリ改葬ヲ願出ルトキハ之ヲ引渡スヘシ

第十二條 消毒ノ爲メニ病者ノ衣服等ヲ消毒所へ送ルトキハ其品目ヲ帳簿ニ記入シ割印シタル送狀ヲ添へ而シテ消毒濟ノ上該所ヨリ受取りテ之ヲ其本人又ハ親戚知音ニ引渡スヘシ

第十三條 死者ノ携帶品ハ更ニ消毒法ヲ行フテ之ヲ親戚又ハ知音へ引渡スヘシ尤衣服等汚穢甚シキ品ハ親戚知音ニ示シ又ハ旅客等府下ニ親戚ナキ者ハ檢疫掛立會ノ上帳簿ニ檢印シテ之ヲ燒棄ツルヲ得

第十四條 入院患者ノ父母妻子兄弟等附添看護致度請願ノ者ハ之ヲ許シ而シテ患者治癒又ハ死去スル

時ハ其附添人ニハ消毒法ヲ行ヒ即日歸宅セシムヘシ

但患者在院中附添人ノミ歸宅スル者モ之ニ同シ尤妄リニ出入スルヲ許サス

第十五條 患者ノ排泄物ヲ燒却ノ爲メ一定ノ場所へ運輸スルトキハ最寄警視分署へ照會シテ檢疫掛巡査ノ護送ヲ要求スヘシ

第十六條 入院患者ノ中有資者ハ入院料及附添人ノ賄料トモ追テ辨納セシムヘシ

第十七條 各種傳染病ノ豫防消毒法ハ總テ本年第三十四號公布并內務省衛生局報告第十三號ニ準據スヘシ

東京警視本署達 第十三年八月九日 (監獄署ヲ除ク)

避病院并傳染病室事務手續別冊之通東京府知事協議ノ上假定候ニ付テハ右手續中立會又ハ護送ヲ乞フ時ハ不都合無之様取計フヘシ此旨相達候事

內務省達節錄 乙三十三年九月十日 東京警視本署府縣ノ目ニ疾疫

本年第三十四號傳染病豫防規則布告相成候ニ付傳染病豫防法心得書別冊相達候條各地方廳ニ於テ時宜ヲ量リ節略諭達シ實際上豫防行届候様取計フヘシ此旨相達候事

傳染病豫防法心得書

虎列刺

第三十二條 避病院ノ位置ハ人家ニ接近セス且ツ運搬ニ便ナル地ヲ撰フヘシ然レトモ井泉河流ノ近傍或ハ往來多キ路傍ニ設クヘカラス又監獄、墓地、火葬場等ノ跡ハ用ヒサルヲ良トス

第三十三條 避病院ヲ新ニ構造スルトキハ空氣ノ流通ヲ主トシ善美ヲ要セス其牀ヲ高クシ窓戸ヲ濶大ニシ且ツ板壁ヲ用ヒテ洗淨ニ便ニスヘシ但板葺、苔等ハ其一時ノ便ニ任シテ可ナリ

第三十四條 避病院ノ廣狹ハ大約人口千人ニ患者一人ノ割ヲ以テシ例ヘハ人口六千人ノ町村ナレハ患者六人分ニシテ每人二坪ト見積リ十二坪ノ病室ヲ要スルノ類ナリ尤モ流行ノ勢ニ因リテハ建坪ヲ増

加スルヲ得ルノ餘地ヲ豫メ計畫シ置クヘシ

第三十五條 避病院ノ病室ハ重症輕症及ヒ快復期ノ患者ヲ區別シテ之ヲ分隔シ二坪ニ患者一人ヲ置クヲ常トシ縱令ヒ患者輻湊ストモ一坪ニ一人ノ割合ヨリ狹クスヘカラス

但此他醫師詰所事務所看護人休息所等便宜ニ之ヲ設クヘシ

第三十六條 避病院ニハ簡易ノ薰蒸室ヲ設クヘシ其構造ハ凡ソ一二坪許ノ小室ニシテ薰蒸氣ノ漏散セサル様密閉シ得ヘカラシメ其内ニ竿ヲ架シ或ハ繩ヲ張り衣服等ヲ掛ルニ便ニス其小ナルモノハ尋常ノ戸棚等ヲ以テ之ニ當ツヘシ

第三十七條 避病院ノ門側ニハ輕易ナル風呂ヲ設ケ見舞人看護人等外出ノ時入浴ノ用ニ供スヘシ

第三十八條 避病院ニハ別ニ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者若シ死亡シタルトキハ直ニ之ニ移スヘシ

但屍室ハ親族ノ用者ヲ容ル、カ爲メ其ノ餘地ヲ設クヘシ

第三十九條 人家稀疏ノ村落ニ於テハ必スシモ避病院ヲ設クルヲ要セス若シ相當ノ空屋等アラハ假リニ之ヲ用フヘシ

第四十條 普通病院ニハ決シテ虎列刺患者ヲ入ルヘカラス

但別ニ傳染病室ノ設ケアルモノハ此限ニアラス

第四十一條 避病院ニ用フル看護人ノ員數ハ重症ノ患者二人ニ一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ四人ニ一人ヲ附シ其快復ニ赴ク者ニハ六人ニ一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌シ晝夜交代セシムヘシ

但看護人ニハ其表記アル衣服ヲ著セシメ且成タケ其人ヲ交換セシメサルヲ良トス

第四十二條 避病院ニアル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サンコトヲ望ムトキハ之ヲ許スヘシ

但看護人ハ多人數ヲラサルヲ要シ且ツ屢々更替スルヲ許ササルヘシ

第四十三條 避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者ハ其見舞ヲ許スヘシト雖モ室内ニ於テ飲食ヲ嚴禁シ且ツ吐寫物ニ接觸セサル様切ニ注意スヘシ

第四十四條 避病院ニ在ル患者ノ病況危篤ニ至ルトキハ速ニ其家ニ通知シ若シ死亡シタルトキハ入棺セサル前ニ其死體ヲ家族ニ示スヘシ

腸室扶私

第六條 流行盛ナルニ際シ既ニ避病院ヲ設クルニ至ラハ狹隘不潔ノ地ニ雜居シ隔離行届キ難キモノハ入院セシムヘシ

但避病院ノ位置廣狹及ヒ區別法等ハ虎列刺ノ部第三十二條以下第三十八條迄ニ照依シテ之ヲ斟酌スヘシ

赤痢

第十條 避病院ノ位置廣狹及ヒ區別法等ハ虎列刺ノ部第三十二條以下第三十八條迄ニ照依シテ之ヲ斟酌スヘシ

第十一條 狹隘不潔ノ住居若クハ製造所會社學校旅店等ニ於テ發病スル者ハ成タテ避病院ニ送致スヘシ

第十二條 避病院看護人ノ分配來訪人ノ處置等ハ虎列刺ノ部第四十一條ヨリ第四十四條迄ニ照依シテ之ヲ斟酌スヘシ

第十三條 普通病院アル地方ニ於テハ院内ヲ區隔シ避病室トナシ患者ヲ入ルヘシ又人家稀疏ノ村落ニ於テハ相當ノ空屋ヲ用フルモ可ナリ

實布埤利亞

第九條 避病院ヲ設クルトキハ別ニ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者死亡シタルトキ之ニ移スヘシ

但屍室ハ親族ノ用者ヲ入ルカ爲メ豫メ其餘地ヲ設クヘシ

第十條 避病院ニ在ル患者ノ親戚又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サンコトヲ望ムトキハ之ヲ許スヘシ但屢々交替スルハ許スヘカラス

發疹室扶私

第十四條 避病院ノ位置ハ人家ニ接近セス且ツ恒風ノ上ニアラサル地ヲ撰ヒ必往來繁多ノ路傍等ニ置クヘカラス

但其門前ニ高ク病名標旗ヲ掲クヘシ

第十五條 避病院ノ建築ハ簡易ヲ旨トシ善美ヲ要セス是レ流行終熄之後燒却スルヲ良トスレハナリ

第十六條 避病院ノ病室ハ最モ濶大ナルヲ要スル故ニ患者一人ニ二坪半ト見積リ其人數ノ概計ハ虎列刺第三十四條ニ載セタル割合ニ從ヒ之ヲ設クヘシ其他醫師詰所、事務所、看護人休息所并ニ簡易ノ薰蒸室等ヲ設クヘシ

第十七條 避病院ノ門側ニ輕易ナル風呂ヲ置キ看護人、見舞人等退出ノ時必ス之ニ浴セシムルヲ良トス又病室ハ空氣ヲ流通セシメンカ爲メ窓戶ヲ開キ冬時ハ暖爐ヲ置キ其溫度ヲ適宜ニシテ空氣ノ代謝ヲ助クヘシ

但患者退院若クハ死亡スルノ後ハ毎回其病室内ニ消毒法ヲ行フヘシ

第十八條 避病院ニハ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者若シ死亡シタルトキハ直チニ之ニ遷シ病室ニ留置クヘカラス

但其屍室ニハ親族ノ用者ヲ入ルカ爲メ其餘地ヲ設クヘシ其用者ハ成タケ速ニ來ルヘキ手續ヲ爲スヲ要ス此病ハ死體モ亦發毒ヲ逞フスルモノナレハ必ス久ク留置クヘカラス

第十九條 人家稀疎ノ村落ニ於テハ必スシモ避病院ヲ要セス若シ相當ノ空屋アラハ之ヲ假用シ或ハ苦葺等ノ屋舎ヲ假設スルモ可ナリ

第二十條 尋常ノ病院ニハ決シテ此患者ヲ入ルヘカラス若シ院内ニ從來傳染病室ノ設アリテ充分ニ隔離消毒法ヲ行ヒ得ヘキノ目的アルモノハ入院ヲ許スヘシト雖モ尋常ノ病院ヲ區隔シテ之ヲ用フヘカラス

第二十一條 避病院看護人ノ員數ハ重症ノ患者ニハ二人ニ一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ四人ニ一人ヲ附シ其快復ニ赴ク者ニハ六人ニ一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌シ且ツ晝夜交代セシムヘシ

但看護人ニハ其表記アル衣服ヲ著セシメ且成タケ其人ヲ更換セシムヘカラス

第二十二條 避病院ニ在ル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲サンコトヲ望ムトキハ之ヲ許スヘシ但其看護人ハ多人數ヲラサルヲ要シ且ツ屢々更替スルヲ許スヘカラス

第二十三條 避病院ニ携ヘ來リシ衣服、手道具等ハ別室ニ置クヲ良トス  
痘瘡

第十四條 避病院ノ位置ハ人家ニ接近セス且ツ恒風ノ上ニアラサル地ヲ撰ヒ必ス往來繁多ノ路傍等ニ設クヘカラス

但其門前ニ高ク病名標旗ヲ掲クヘシ

第十五條 避病院ヲ新タニ構造スルトキハ空氣ノ流通ヲ主トシ善美ヲ要セス其牀ヲ高クシ窓戶ヲ濶大ニシ且ツ板壁ヲ用ヒテ洗淨ニ便ニシ其屋根ハ板葺、苫葺等一時ノ便ニ任シテ可ナリ且ツ其病室ハ濶大ナルヲ要スルヲ以テ凡患者一人ニ二坪半ト見積リ之ヲ建設スヘシ

第十六條 避病院ノ病室ハ重症輕症ノ患者ヲ區別シテ之ヲ分隔シ二坪半ニ患者一人ヲ置クヲ常トシ縱令輻湊スルトモ一坪若クハ一坪半ニ一人ノ割合ヨリ狹クスヘカラス

但此他醫師詰所、事務所、看護人休息所等便宜ニ之ヲ設ケ且ツ簡易ノ薰蒸室ヲ設クヘシ

第十七條 避病院ノ門側ニハ輕易ナル風呂ヲ設ケ看護人、見舞人等外出ノ時入浴ノ用ニ供スヘシ

第十八條 避病院ハ窓戶ヲ濶大ニシ空氣ヲ流通セシメ冬時ハ暖爐ヲ置キ室内ノ溫度ヲ適宜ニシ空氣ノ代謝ヲ助クヘシ

但病室ハ患者治癒死亡ノ後毎回消毒法ヲ施スヘシ

第十九條 避病院ニハ別ニ清淨ナル屍室ヲ設ケ患者若シ死亡シタルトキハ直チニ此ニ移スヘシ

但屍室ハ親族ノ用者ヲ入ルルカ爲メ其餘地ヲ設クヘシ且ツ其用者ハ成タケ速ニ來ルノ手續ヲナスヲ要ス

第二十條 尋常病院ニハ決シテ此患者ヲ入ルヘカラス若シ院内ニ從來傳染病室ノ設ケアリテ充分ニ隔

離法消毒法ヲ行ヒ得ヘキノ目的アルモノハ入院ヲ許スト雖モ尋常ノ病院ヲ區隔シテ之ヲ用フヘカラス

第二十一條 人家稀疎ノ村落ニ於テハ必シモ避病院ヲ設ルヲ要セス若シ相當ノ空屋アラハ假ニ之ヲ用フヘシ

第二十二條 避病院看護人ノ員數ハ重症ノ患者ニハ一人一人ヲ附シ輕症ノ者ニハ三人一人ヲ附スル割合ヲ以テ便宜斟酌シ且ツ晝夜交代セシムヘシ

但看護人ハ既痘者ニ限ルヘシ且其表記アル衣服ヲ著セシメ成タケ其人ヲ更換セシムヘカラス

第二十三條 避病院ニ在ル患者ノ親類又ハ別段ノ交誼アル者看護ヲ爲ンコトヲ望ムトキハ既痘者ニ限リ之ヲ許スヘシ但屢々更替スルヲ許スヘカラス

第二十四條 患者ノ親族等一時見舞ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許スト雖モ成タケ屢々スヘカラス其出ル時ニハ必ス充分ノ消毒法ヲ施スヘシ

內務省達 乙四十一年十一月十日

昨午虎列刺病流行ノ餘本年尙再燃ノ兆アリシモ幸ニ蔓延ニ至ラス漸次終熄ニ趨キ候ニ付テハ各地ニ取建候避病院ノ儀存廢ノ見込相立夫々處分可致就テハ該院ニ於テ使用候家具物品等取調到底病毒遺傳ノ虞ヲ免レサルモノハ燒棄候儀可致尤十二年度虎列刺病豫防臨時費ヲ以テ建設候避病院ニテ將來地方稅若クハ其最寄町村協議費等ヲ以テ保存スヘキ見込有之分ハ建物々品共詮議ノ上下附可致候條精細取調可伺出此旨相達候事

但本文保存ノ見込無之臨時費避病院ノ建物物品ハ消毒ノ後公賣ニ付シ代金稅外收入ノ積明細書ヲ以テ可申出候事

內務省同 乙四十一年十一月三十日

昨十二年虎列刺病之儀者非常ノ流行ニシテ全國ニ蔓延シ最慘毒ヲ極メ候ニ付豫防ノ費用隨テ巨額ニ上リ地方稅協議費等ノ支ヘ能ハサル所ヨリ特別ノ御詮議ヲ以テ臨時費御下附相成候儀ニ有之然ルニ右臨

時費ヲ以テ建設相成候避病院ハ素ヨリ一時應急ノ爲メ取設候者ニシテ必シモ永存スヘキ目的ニ無之病勢終熄ノ後ハ取設テ或ハ品ニヨリ燒棄スヘキ者ニ有之若シ之ヲ再用セントナラハ多少修繕ヲ要スヘキ儀ニ候得共臨時費御下附不相成際ハ官費ヨリ支給スヘキ筋ニ無之去迎悉皆取設公賣取計候モ僅少ノ價額ヲ收ムルニ過キス而シテ本年ニ於テ病毒猶未タ滅盡ニ歸セス往々各地ニ再燃スルモノアリ避病院ノ用全ク將來ニ廢スヘカラス然ルニ昨年官費ニテ建ルモノヲ毀テ別ニ民費ニ課シテ新築セシメントセハ唯ニ民費ノ課出ニ苦ムノミナラス大ニ最前民費ノ及ハサル所ヲ助クルノ主意ニ背シモノトス就テハ地方稅若クハ最寄町村ノ協議費等ニテ修繕相成候儀及ハサル所ヲ助クルノ主意ニ背シモノトス就テハ地得者官費支出ノ旨趣相貫キ民費ノ節減ト相成一舉兩全ノ儀ト存候ニ付大藏卿協議ノ上右様處分致候此段御開置相成度及上申候也

指令 乙四十一年十二月二十日

上申ノ趣聞置候事

內務省同 乙四十一年十二月十六日

內務省上申虎列刺避病院處分方ノ儀ヲ案スルニ該病院建設ノ趣旨ハ一時ノ急ニ應スルモノニテ永存スヘキ目的ニテアラスサルモ虎列刺病毒尙未タ滅盡ニ歸セス往々各地方ニ再燃シ蔓延ノ患アリ然ラハ避病院ノ用ハ到底將來ニ廢スヘカラスサルモノニ付相當維持ノ方法ヲ設ク可成丈ク之ヲ保存セシムル方官民兩便ニシテ同省見込至當ト存候間伺ノ通御開置相成可然哉仰高裁候也會計検査院大藏省ヘ通牒

(參考)

衛生局ヨリ內務省ヘ伺 乙四十一年十月八日

本年各地ニ虎列刺病再燃ノ兆有之候處幸ニ蔓延ニ至ラス漸次終熄ニ趨キ候ニ付テハ昨午各地方ニ取建候避病院ノ儀存廢ノ見込相立夫々處分可致就テハ該院ニ於テ使用候家具物品等ニテ病毒ニ汚染候者其儘存在候向モ有之儀ニ相聞極メテ危險ノ儀ニ付右等取調再用ニ堪ヘサルモノハ燒棄爲度就テハ昨年臨時費ヲ以テ建設相成候避病院ノ儀ハ素ヨリ一時ノ假設ニシテ永存スヘキ目的ニ無之ニ付多少修繕ヲ加ヘサルハ再用致シ難ク去迎臨時費ヲ以テ修繕ヲ加フヘキ者ニ無之因テ悉皆取設或ハ燒棄スヘキ儀ニ候得トモ避病院ノ用全ク將來ニ廢ス可ラス然ルニ昨年官費ニテ建ルモノヲ毀テ別ニ民費ニ課シテ新築セシメントセハ唯ニ民費ノ課出ニ苦ムノミナラス大ニ最前民費ノ及ハサル所ヲ助クルノ主意ニ背シモノトス就テハ地方稅若クハ最寄町村ノ協議費等ニテ修繕相成候儀及ハサル所ヲ助クルノ主意ニ背シモノトス就テハ地并物品共御下附相成候儀致度左候ヘハ官費支給ノ旨趣相貫キ民費ノ節減ト相成一舉兩全ノ儀ト存候ニ付右見込無之分ハ建物取設不用物品共公賣ノ上稅外收入爲取計候條致度依テ別紙御達案相添此段相伺候也

東京府達 乙四十一年十二月一日

傳染病ノ內發疹室扶私患者ニ限リ本府病院內傳染病病室へ入室ノ儀明治十二年八月當廳乙第三十五號ヲ

衛生門 病院

五百三十三

東京府病院傳染病室へ  
脚登扶私赤痢實布種利  
亞痘患者ノ入室ヲ許ス

十四年七月東京府布達甲第九十五號ヲ以テ病院ヲ廢止ス前ニ載ス

以テ相違置候處自今腸室扶私赤痢實布埤利亞痘瘡ノ患者タリトモ自宅ニ於テ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難ク事實止ヲ得サル者ハ入室セシムヘク候條區戸長ヨリハ醫業ノ者ヘ告示スヘシ此旨相違候事

檢疫局避病院看護婦小使排泄物取扱人定員表

東京檢疫局達 十五年八月三日 其院看護婦小使排泄物取扱人之儀別紙定員表ニ據リ醫長ノ見計ヲ以テ雇入雇罷共所置致シ其時時當局ヘ届出ヘシ此旨相違候事

看護婦小使排泄物取扱人定員表

患者數	看護婦	小使	排泄物取扱人
一 人	一 人	三 人	二 人
二 人	二 人	三 人	二 人
三 人	三 人	三 人	二 人
四 人	四 人	三 人	二 人
五 人	五 人	三 人	二 人
六 人	六 人	三 人	二 人
七 人	七 人	三 人	二 人
八 人	八 人	三 人	二 人
九 人	九 人	三 人	二 人
十 人	十 人	三 人	二 人

以下十人毎一人ヲ増ス

檢疫局避病院規則并職務心得

十五年十月十一日內務省達ヲ以テ檢疫局ヲ開館ス

東京檢疫局達 十五年八月九日 其院規則并ニ職務心得別冊之通相定候條此旨相違候事 但シ明治十三年八月東京府乙第三十六號達及ヒ其他ノ達ニテ本文ニ抵觸及ヒ重複スルモノハ廢止之儀ト可心得

東京檢疫局達 十五年八月九日 郡區役所 警察署

避病院規則并ニ職務心得別冊之通相定候條爲心得此旨相違候事

第一章 總則

第一條 本院ハ虎列刺病者ヲ治療スル所トス

第二條 本院ニ於テ執行スル所ノ事ハ明治十二年第三十四號公布并ニ同年內務省乙第二十六號達ニ準據スルモノトス

第三條 虎列刺病者ヲ護送シ來ルトキハ醫員ノ診斷ヲ經テ重症室ニ入ラシム可シ

第四條 患者快復ニ赴クトキハ之レヲ快復室ニ移シ全治ト認ムル者ハ退院ノ手續ヲ爲ス可シ

第五條 患者危篤ニ瀕スルトキハ急使ヲ以テ其親戚若クハ引受人ニ報知スヘシ

第六條 患者死亡シタル時ハ急使ヲ以テ其親戚若クハ引受人ニ報知シ其來院ノ後埋葬證ヲ添ヘ火葬場ニ昇送スルモノトス

但死屍ハ屍室ニ移シ消毒藥ニ浸シタル衣ヲ被ヒ親戚引受人等ノ來ルヲ俟テ之ヲ示スヘシ尤二十四時間ヲ俟テ其親戚引受人等來ラサルトキハ直ニ火葬取計フヘシ

第七條 前條ノ場合ニ於テ旅客等府下ニ親戚知音引受人等ナキモノハ死亡後二十四時間ヲ俟テ火葬取計ヒ其所在ノ區役所若クハ戸長役場ニ其旨通報スヘシ

但遺骨ハ共葬墓地内公葬地ヘ假埋致シ置キ其墓標等ハ詳記シテ最初患者ヲ送り來ル所ノ警察署ヘ

十三年七月布達第三十四號ハ傳染病預防規則ナリ同年九月內務省達乙第三十六號ハ傳染病預防心得書ナリ俱ニ疾病ノ目ニ載ス



報知スヘシ

第八條 入院患者ノ父母妻子兄弟等附添看護致度請願ノ者ハ之ヲ許ルシ而シテ患者治療若クハ死亡スルトキハ沐浴等充分ノ消毒法ヲ行ヒシ上歸宅セシムヘシ

但附添中ハ猥リニ歸宅スルヲ許サス

第九條 死屍ヲ送ル時若クハ病毒汚染ノ物品及ヒ排泄物ヲ焼却場へ輸送スルトキハ必ス檢疫掛巡查助手ノ護送ヲ要スヘシ

但運送器具ハ其都度消毒法ヲ行フヘシ

第十條 患者ノ所持品ニシテ病毒汚染甚シキモノハ其親戚引受人ニ示シ牒簿へ檢印セシメタル上燒却方取計フ可シ

但旅客等府下ニ親戚知音ナキ者ハ護送巡查立會牒簿へ檢印ノ上本文ノ取計ヲ爲スヘシ

第二章 醫長

第十二條 醫長ハ患者治療ノ事ヲ掌リ兼テ病院ノ諸務ヲ總理ス

第十三條 醫長ハ宿直醫以下ノ勤惰ヲ監視シ其進退黜陟ヲ具狀スルヲ得

第十四條 醫長ハ病床日誌及ヒ患者表ヲ整理シ本局へ開申スヘシ

第十五條 醫長ハ定員内ヲ以テ小使看病人排泄物取扱人ヲ雇入ルルヲ得

但雇入雇罷共本局へ届出ツヘシ

第十六條 醫長ハ病室其他ノ修繕及ヒ重大ナル物品ノ購求ヲ要スルトキハ本局へ申立裁可ヲ請フヘシ

第三章 當直醫

第十七條 當直醫ハ院内ニ詰切醫長ノ指揮ヲ受ケ患者治療ノ事ヲ掌ル

但患者ノ多寡ヲ量リ治療上差支ナキトキハ醫長ノ見計ヲ以テ交番當直セシムルコトアルヘシ

第十八條 當直醫ハ患者ニ與ル飲食物ハ勿論看病人ノ飲食物ニモ注意スヘシ

十五年八月檢疫局達第二十八號ヲ以テ第十五條ヲ改正ス

十五年八月檢疫局達第二十八號ヲ以テ第十六條中ヲ刪ル

第十九條 當直醫ハ患者危篤ニ陥ルトキ及ヒ死亡スルトキハ直ニ事務掛へ申談シ其親族若クハ引受人ニ報知スヘシ

第二十條 當直醫ハ左ニ記載スル牒簿及ヒ日誌ヲ整理スヘシ

一患者入退簿

一治療用器械及諸雜品受取簿

一病床日誌

第四章 調藥生

第二十一條 調藥生ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ藥劑調合ノコトヲ掌リ其詰切ルト交番當直スルトハ當直醫ニ同シ

第二十二條 調藥生ハ毎日受取りタル處方箋ヲ編綴シテ遺失ナカラシメ藥品器械受取簿并ニ藥局日誌ヲ製シ置クヘシ

第五章 事務掛

第二十三條 事務掛ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ會計及ヒ雜務ヲ掌ル

第二十四條 事務掛ハ番衛小使及ヒ看病人ヲ監督シ院内諸物件ノ取締及ヒ掃除向ニ注意ス可シ

第二十五條 事務掛ハ患者入院ノ節ハ其携帶品ヲ取調之ヲ帳簿ニ記入シ附添人若クハ護送巡查ヲシテ之ニ檢印セシメ其物品ハ適宜ニ消毒法ヲ行フテ預リ置クヘシ

但汚穢甚シク消毒ニ堪ヘサルモノハ附添人若クハ護送巡查ノ檢印ヲ受ケ燒却ノ手續ヲ爲ス可シ

第二十六條 事務掛ハ患者ノ衣服其他ノ携帶品ニテ消毒堪ユヘキモノハ其品目ヲ帳簿ニ記入シ之ニ割印シタル送狀ヲ添へ錦糸町消毒所へ送り消毒済ノ上之ヲ受取り全治退院ノ節本人へ引渡シ檢印ヲ取置クヘシ

但患者死亡セシトキハ其親戚若クハ引受人ニ引渡シ檢印ヲ取置クヘシ其旅客等府下ニ親戚ナキモノハ最初送り來ル所ノ警察署へ引渡スヘシ

十五年八月檢疫局達第二十八號ヲ以テ第二十三條中ヲ改正ス

十五年八月檢疫局建第二十八號ヲ以テ第二十八條ヲ改正ス

十五年八月檢疫局建第二十八號ヲ以テ第二十九條ヲ改正ス

十五年八月檢疫局建第二十八號ヲ以テ第三十條中ヲ改正ス

第二十七條 事務掛ハ醫員ヨリ患者危篤ノ報アルトキハ速ニ其由ヲ親戚若クハ引受人ニ報知スヘシ  
第二十八條 事務掛ハ院内需用品ハ醫長ノ檢印ヲ受ケ用達ニ命シテ調達セシメ其勘定ハ每月末取纏ヲ本局ヘ差出スヘシ

但藥品ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ凡ソ向ニ週間消費スヘキ數量ヲ見積リ其買上方ヲ本局ヘ要請スヘシ尤臨時至急ノ節ハ醫員ノ需ニ應シ藥舖ヨリ買上其旨本局ヘ届出ツヘシ  
第二十九條 前條需用品ヲ用達ヨリ納ムルトキハ其現品及ヒ代價ノ當否ヲ改メ用達ヨリ出シタル代價ヲ寫シ取り雙方ノ牒簿ニ檢印ヲ捺ス可シ

但時アリテハ醫長之ヲ監査スルコトアルヘシ  
第三十條 病院所有ニ係ル病衣夜具蚊張疊等甚シク汚染セシモノハ醫長ノ指圖ヲ受ケ一定ノ燒却場ニ送り燒棄スヘシ尤其數量ハ詳記シテ本局ヘ届出ヘシ

但燒却物運搬ハ檢疫掛巡查助手ノ護送ヲ受クルモノトス  
第三十一條 事務掛ハ左記ノ通簿册ヲ類別シテ事務所ヘ備置キ遺漏ナク其時々登記若クハ編綴スヘシ  
一本局同指令綴

- 一 患者族籍住所姓名簿
- 一 患者携帶品受渡簿
- 一 各警察署往復簿
- 一 郡區役所往復並ニ患者身元調綴
- 一 患者親戚引受人其他諸往復綴
- 一 消毒所物品受渡扣
- 一 諸物品出納帳
- 一 藥品出納帳
- 一 人足人力車雇上帳

- 一 郵便電信差立帳
- 一 火葬費取調帳
- 一 排泄物燒却帳
- 一 汚穢物燒却帳
- 一 宿直簿
- 一日誌

第六章 消毒掛

第三十二條 消毒掛ハ時々病室内外ヲ巡視シ小使看病人排泄物取扱人ヲ監督指揮シ院内一般ノ清潔法及消毒法ニ注意ス可シ

第三十三條 消毒掛ハ小使ヲ使役シ病院内ヨリ流出スル下水ニハ時々硫酸鐵合劑ヲ撒布セシムヘシ

第三十四條 消毒掛ハ病汚染ノ物品ヲ點檢シ消毒ニ堪ユヘキモノハ消毒所ニ送り消毒ニ堪ヘカタクモノハ燒却場所ヘ送ルノ手續ヲ爲スヘシ

第三十五條 消毒掛ハ患者見舞人其他病室及ヒ屍室ニ到リシ者出門スル節ハ別ニ定ムル所ノ消毒法ヲ行フヘシ

第七章 番衛

第三十六條 番衛ハ各門ノ開閉ヲ掌リ且入院患者ノ親戚知音等ヲ除クノ外猥リニ出入セシムヘカラス

第三十七條 番衛ハ入門者ノ携帶品ヲ改メ別ニ揭示スル所ノ品目ニ觸ルルモノハ院内ニ携フルコトヲ禁スヘシ

第八章 看病人取締

第三十八條 看病人取締ハ其受持病室ノ看病人ヲ監督シ懈怠ナキ様注意ヲ加フ可シ

第三十九條 看病人取締ハ其受持病室ニ消費スル物品ヲ事務掛ヨリ受取り之ヲ受取簿ニ記入シ精々浪費ヲ省ク可シ

検査局本郷追分元脚氣  
病院跡ニ避病院ヲ置キ

東京検査局告示 第四號 八月十二日  
本郷追分元脚氣病院跡ニ避病院ヲ置キ明十三日正午十二時ヨリ開院候條此旨告示候事

東京検査局達 第二十三號 八月十二日

本郷追分元脚氣病院跡ニ避病院ヲ置キ明十三日正午十二時ヨリ開院候條虎列刺病患者アルトキハ成規  
ノ通り便宜護送方取計フヘシ此旨相達候事

内務省上申十五年七月二十八日  
東京府下虎列刺病勢倍々猖獗ニ趨キ連日三四百名以上ノ患者有之三箇所ノ避病院モ忽チ満員ニ相成目  
下避病室ニ差支候ニ付一時文部省所轄脚氣病院ヲ借受使用致シ候ニ付テハ該病撲滅ノ上右病室建替等  
ノ處置ヲナシ返却候等同省ト締約致度旨東京検査局總理ヨリ申出候ニ付聞置候條尙詳細該費用等取調  
サセ退テ具申可致候ヘ共不取敢此段及上申置候也

検査局本郷追分元脚氣  
掛處務規程

十五年十月十一日內務省  
達シ以テ検査局ヲ閉鎖ス

東京検査局達 第十五號 八月二十日

避病院會計事務ノ儀ハ別紙處務規程ニ據リ本局會計掛員ヲ派遣シ爲取扱候條爲心得此旨相達候事

避病院派出會計掛處務規程

避病院派出會計掛員ハ職務上ノ事ヲ本局會計主務官ニ受ケ左ノ條項并本局第十八號達避病院規則ニ照  
準院中會計ノ事務ニ從事スル者トス

第一條 院中ノ諸經費出納ハ本局會計掛ニ於テ之ヲ取扱フモノトス故ニ直接之ニ關涉セスト雖モ一切

ノ支出ハ其豫算ニ基クヘキ勿論ナルヲ以テ毎科目ニ就キ超過セサル様常ニ注意スヘシ

第二條 物品ノ取扱ハ其直ニ購入シタルモノト現品ヲ以本局ヨリ受入タルモノトヲ問ハス一々之ヲ帳

簿ニ記載シテ受拂ヲ明瞭ニシ錯亂ノ患ナカラシム

第三條 院中需用ノ物品(筆墨紙薪炭油茶蠟燭等ノ消耗品及備品ト雖モ)ハ直ニ之ヲ購入シ置事務掛ノ請

求ニ依リ渡方ヲ爲スヘシ

但渡方ヲ爲ストキハ必ス渡帳ニ品目員數ヲ詳記其受取人ニ捺印セシムヘシ

第四條 前條物品ノ購求方ハ少數及一個五圓未滿ナルハ詰合ノ用達ニ命シテ之ヲ納メシメ一個五圓未

滿ト雖モ數個ヲ要シテ代價合計五十圓以上ニ昇ルトキハ會計主務官ノ指揮ヲ得テ購求方取計フヘシ

然シテ右代價請取方申出ルトキハ其請求書ヲ調査シ一廉毎ニ檢印ヲ捺シ本局會計掛ヘ回附シテ直チ

ニ納入ニ受取方ヲ爲サシムヘシ

第五條 前條ニ掲クル通常物品ノ類ニ非サル臨時需用ノ物品ハ必ス別ニ事務掛ヨリ醫長檢印ノ通知書

(半紙野ヲ用ニ)ヲ用サシメ其需用ノ當否ヲ審査シ必需ノ分ハ之ヲ本局會計掛ニ請求シ現品ヲ以受取タ

ル上第二條但書ノ手續ヲ爲シ渡方ヲ爲スヘシ

但避病院規則第十六條ニ掲クル重大ノ物品ハ本文ノ限ニ非ス

第六條 治療器械及藥品等ハ事務掛ヨリ醫長捺印ノ請求書ヲ出サシメ第五條ノ手續ニ據テ其受授ヲ爲

スヘシ

但藥品及患者需用ノ物品等至急ヲ要スルモノニシテ本文ノ順序ヲ經ルノ間合ナキモノハ直チニ詰

合用達ニ命シテ購求渡方ヲ爲シ事務掛ノ請求書ヲ添ヘテ本局會計掛ニ届出ヘシ

第七條 患者夜具單衣等ハ其人員ニ依テ本局會計掛ヘ申立常ニ豫メ之ヲ備ヘ置ヘシ若シ不足ヲ生スル

カ破損或ハ汚穢等ノ爲メ更ニ調製ヲ要スルトキハ第四條ノ順序ニ據テ處分スヘシ

第八條 患者ノ夜具其他ノ物品汚穢甚シク用ニ供シ難キモノ等燒棄セシトキハ其員數品目ヲ詳記シタ

ル醫長檢印ノ通知書ヲ事務掛ヨリ受取本局ヘ届出ヘシ

第九條 郵便切手ハ概算ヲ以本局會計掛ヨリ受取置每一箇月支拂明細表ヲ添テ翌月三日限り精算ヲ爲

スヘシ

第十條 臨時雇上ケ人足船車并至急用ノ節雇上ケ人力車等ヲ要スルトキハ使用ノ事由出張ノ場所等ヲ

掲載シタル醫長檢印ノ通ニ據リ詰合用達ニ命シテ適宜之ヲ雇上ケヘシ然シテ賃錢渡方ハ第四條物品

代價支拂方ノ例ニ據ルヘシ

第十一條 小使及看病婦排泄物取扱人等ノ雇入并雇罷メヲ爲ストキハ定員内ノ分ハ醫長ノ通知ヲ得テ  
適宜處分シ該通知書ヲ添本局會計掛ヘ届出ヘシ

第十二條 醫員及事務掛等ノ俸給ハ毎月十七日本局會計掛於テ假證書ヲ取纏メ同掛ヘ送附シ前ノ假證  
書ト交換スヘシ

第十三條 日給雇并番衛小使等ノ給料ハ其出勤日數ヲ詳記シタル事務掛ノ通知ニ據リ一箇月ツツ取纏  
メ受取方ノ仕出書ヲ遲クモ受取日ノ前前日マテニ本局會計掛ヘ出シ置當日ニ至リ前條同様受取方ノ  
取扱ヲ爲スヘシ

第十四條 醫員其他宿直掛ノ儀モ前條同様取計フヘシ

第十五條 看病婦并排泄物取扱人給料ハ受負人ヨリ每半箇月若クハ一箇月分ツツ取纏メ(日數ノ伸縮ハ  
妨クナシト雖モ毎月一)請求書ヲ事務掛ヲ經テ出サシメ日數人員等ヲ調査檢印シテ本局會計掛ヘ送附  
シ受負人ニ於テ直ニ受取方ヲ爲サシムヘシ

第十六條 患者入院料等其自辨シ得ルモノハ上納證書ヲ添テ之ヲ納メシメ直ニ本局會計掛ヘ納附スヘ  
シ

第十七條 火葬料ハ其火葬場ヨリ事務掛ヲ經テ請求書ヲ出サシメ檢印ノ上本局會計掛ヘ送附シ本人ニ  
於テ直ニ受取方ヲ爲サシムヘシ

第十八條 前各條ニ明文無之事項ハ其時々會計主務官ノ指揮ヲ乞フヘシ

検査局避病院規則并職  
務心得中ヲ改正ス

十五年十月十一日内務省  
達ヲ以テ検査局ヲ閉鎖ス

東京検査局達 第十五号八月二十日 郡區役所 警察署 避病院

本局第十八號達避病院規則并職務心得別紙ノ通り改正候條此旨相達候事

但來ル二十二日ヨリ實施可致儀ト心得ヘシ

第十五條 醫長ハ定員内ヲ以小使看病人排泄物取扱人ヲ適宜雇入雇罷ヲ派出會計掛ヘ通知スヘシ  
第十六條 裁可ヲ請フノ五字ヲ刪ル

第二十三條 「會計及ヒ」ノ四字ヲ「院中」ト改ム

第二十八條 事務掛ハ院内日用需用品其他治療及藥局用ノ器具等ハ醫長ノ檢印ヲ受ケタル書面ヲ以テ  
派出會計掛ヘ通知シテ受取方ヲ爲スヘシ

但藥品ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ凡ソ向二週間消費スヘキ數量ヲ見積リ受取方ヲ派出會計掛ヘ請求スヘ  
シ

第二十九條 船車人足等ヲ要スルトキハ帳簿ニ員數及ヒ使用スル理由若クハ箇所ヲ摘記シ醫長ノ檢印  
ヲ受ケ派出會計掛ヘ請求スヘシ

但郵便電信ヲ發セントスルトキハ帳簿ヘ員數届先ヲ記載シ派出會計掛ヘ送附スヘシ  
第三十條 「本局ヘ届出ヘシ」ノ七字ヲ「派出會計掛ヘ通知スヘシ」ト改ム

東京検査局達 第十五号八月二十一日 郡區役所 警察署 避病院

從前自宅治療ヲ許スヘカラサル者ト認メ巡查ヲ以護送シ入院爲致候者ノ内ニテモ入院料收納ニ堪候者  
ハ一日四十錢宛取立來候處今後悉皆不及徵收候事

但自宅療養ヲ許スヘキモノニシテ資力アリテ自ラ入院願出候者ハ一圓五十錢上納可爲致候ニ付右  
等ノ者ハ其都度可伺出候事

東京検査局告示 第十五号九月二日 第八號

日本橋區坂本町四十番地ニ避病院ヲ置キ明三日正午第十二時ヨリ開院候條此旨告示候事

東京検査局達 第十五号九月二日 第十四號 警察署

日本橋區坂本町四十番地ニ避病院ヲ置キ明三日正午十二時ヨリ開院候條虎列刺病者アルトキハ成規ノ  
通り便宜護送方取計フヘシ此旨相達候事

検査局日本橋區坂本町  
ニ避病院ヲ置ク

検査局避病院入院料徴  
收ヲ止ム

十五年十月十一日内務省  
達ヲ以テ検査局ヲ閉鎖ス

検査局大久保病院ヲ閉鎖ス

東京検査局告示 第十五号 九月二十日  
大久保避病院明二十一日限り閉鎖候條此旨告示候事

検査局芝避病院ヲ閉鎖ス

東京検査局告示 第十五号 九月二十五日  
芝避病院明三十日限り閉鎖候條此旨告示候事

検査局日本橋避病院ヲ閉鎖ス

東京検査局告示 第十五号 十月五日  
明後七日限り日本橋避病院閉鎖候條此旨告示候事

検査局本郷避病院ヲ閉鎖ス

東京検査局告示 第十五号 十月九日  
本郷避病院明十日限り閉鎖候條此旨告示候事

舊検査局所轄避病院ヲ東京府へ下渡ス

内務省ヨリ東京府へ達 十六年九月十八日  
舊東京検査局所轄本郷日本橋芝避病院建家一式其府へ下渡候條地方費ヲ以テ常備保存候様可取計此旨相達候事

但此際保存費補助トシテ金千圓別途下付候條請取方當省へ可申出最本年七月已降ノ諸費一切支辨候儀ト可心得事

内務省上申 十六年四月  
別紙ノ通舊東京検査局總理ヨリ申出候處甲號文部省所轄本郷脚氣病室借入ノ儀ニ付テハ客歳七月二十八日付ヲ以テ上申致置候次第モ有之其後検査局經費仕譯書營繕費中ニ脚氣病室修繕費金一萬千五百圓編入致シ已ニ御允裁相成候儀ニモ有之候處今般文部省ト協議ヲ遂ク兼テ御允裁相成候同室修繕費額ヲ以テ別ニ脚氣病室ヲ新築交換シ本郷脚氣病室ハ悉皆該局ニ申受候談判相整候趣ニ付該局總理申出ノ通御允許相成常備ノ避病院トシテ保存候様致度且右御允裁相成候上ハ乙號日本橋芝避病院保存之儀今日景况ヲ以テ觀ルトキハ進モ地方經濟ニ任スヘカラサルハ津ヲ該局申出ノ通ニ付兩院共本郷避病院同様當分ノ内當省ニ於テ保存シ流行ノ際ニ至テ地方廳ニ貸與候得ハ豫防其期ヲ誤ル如キ患ヒモ無之ト存

候ニ付右保存費トシテ特別ヲ以テ別紙丙號ノ通明治十六年度以降年々金二千圓ツ、別途御下付ノ儀併テ相伺候條至急御決裁候也  
追テ三避病院明治十五年年度保存費ノ儀ハ舊東京検査局經費中豫防費ヨリ支辨可致積ニ付此段副申候也

指令十六年七月十七日  
伺ノ趣脚氣病室交換及退申ノ儀ハ聞届候但日本橋外二箇所避病院保存ノ義ハ其費用地方ノ負擔ニ歸セシメ特別ヲ以テ際右補助トシテ金千圓別途下付候條此旨東京府へ相達保存方可取扱事  
大藏省へ達 十六年七月十七日  
別紙内務省上申文部省所轄本郷脚氣病室交換及ヒ日本橋芝避病院常備保存ノ義朱書ノ通及指令候條十六年度豫備金ノ内ヨリ渡方可取計此旨相達候事

東京検査局ヨリ内務省へ上申 十六年三月十七日  
客歳虎列刺ノ病毒府下ニ其慘狀ヲ過スルニ際シ芝大久保本所ノ三避病院患者忽チ充満シ救済ノ地ナキニ至リ日本橋區一府下ニ其後二院ヲ増設候節其位置ヲ撰定スルニ日本橋本郷ノ兩區内適當ナル地ナキ省ニ協議シ閉院ノ上ハ悉皆改築返戻ノ契約ヲ以テ借用開設シ大ニ豫防ノ功ヲ奏シ候ニ付閉鎖ノ後其改築ノ費用概算スルニ凡金一萬五千五百餘圓ヲ要スルヲ以テ之ヲ本局改正豫算中ニ編入シ上請候處頃日御允可相成候間直チニ起工致スヘシノ所猶熟ラ客歳ノ實験ニ因テ本局改正豫算中ニ編入シ上請候處頃日御如キハ最適當ノ地ニシテハ勿論淺草區人民ノ如キ過半ハ此院ニ依テ如キ病勢猖獗ノトキニ際セハ下谷本郷北豊島ノ二區一部ハ勿論淺草區人民ノ如キ過半ハ此院ニ依テ如キ病勢猖獗ノトキニ際セハナラズ多シハ該病蔓延ノ候タル芝日本橋等ニ送院セシムルトキハ途程懸隔爲メ治療セシムルハ頗ル便利ナリト雖トモ若シ此設ナシハ勿論淺草區人民ノ如キ過半ハ此院ニ依テ如キ病勢猖獗ノトキニ際セハナラズ少ナカラス其類似輕症ノ候タル芝日本橋等ニ送院セシムルトキハ途程懸隔爲メ治療セシムルハ頗ル便利ナリト所其間變テ容ルヘカラス故ニ避病院ノ位置タル府下何レノ郡區ヨリシテ中央便宜ノ地トモ多キニ至ラカラス若シ其設置ヲシテ偏隅一二ノ地ニ止マラシムルハ必スヤ患者ヲシテ途程懸隔爲メ治療セシムルハ頗ル便利ナリトムヘシ果シテ然ルトキハ自然人民ヲシテ避病院ヲ忌避スルノ念ヲ生シテ轉シテ隱匿ノ弊トナリ又忽チ變シテ病毒傳播ノ媒介トナルニ至ルハ然リト雖トモ其重症篤ニ迫ルノ患者ヲシテ途程懸隔爲メ治療セシムルハ頗ル便利ナリト住スルモノニ至テハ一患者ノ爲メニ近傍忽チ病毒蔓延ノ患ヲ生シテ轉シテ隱匿ノ弊トナリ又忽チ變シテ病毒傳播ノ媒介トナルニ至ルハ然リト雖トモ其重症篤ニ迫ルノ患者ヲシテ途程懸隔爲メ治療セシムルハ頗ル便利ナリトト確認仕候儀ニ御座候間再ヒ文部省ニ協議スルニ別ニ脚氣病室ヲ新築交換セシムルノ儀ニ付テハ客歳七月二十八日付ヲ以テ上申致置候次第モ有之其後検査局經費仕譯書營繕費中ニ脚氣病室修繕費金一萬千五百圓編入致シ已ニ御允裁相成候儀ニモ有之候處今般文部省ト協議ヲ遂ク兼テ御允裁相成候同室修繕費額ヲ以テ別ニ脚氣病室ヲ新築交換シ本郷脚氣病室ハ悉皆該局ニ申受候談判相整候趣ニ付該局總理申出ノ通御允許相成常備ノ避病院トシテ保存候様致度且右御允裁相成候上ハ乙號日本橋芝避病院保存之儀今日景况ヲ以テ觀ルトキハ進モ地方經濟ニ任スヘカラサルハ津ヲ該局申出ノ通ニ付兩院共本郷避病院同様當分ノ内當省ニ於テ保存シ流行ノ際ニ至テ地方廳ニ貸與候得ハ豫防其期ヲ誤ル如キ患ヒモ無之ト存



東京府本所避病院ヲ開院ス  
十九年十一月東京府告示第百十四號ヲ以テ開院ス

東京府告示 第十九年七月十日  
本所避病院本月十二日ヨリ開院ス  
警視廳訓令 甲第二十八號警察署  
本日本所松代町避病院開院虎列刺患者ニ限り入院セシムル旨東京府ヨリ通知越候ニ付芝區最寄ノ患者ハ從前ノ通愛宕町臨時病院へ入院セシム其他ノ患者ハ本所避病院へ送致セシムヘシ

東京府告示 第十九年七月二十四日  
日本橋區坂本町舊避病院ヲ東京府臨時病院分院トシ虎列刺病ノ外他ノ傳染病患者ヲ入院セシム

東京府坂本町舊避病院ヲ東京府臨時病院分院トス  
十九年十一月東京府告示第百十四號ヲ以テ開院ス  
十九年七月東京府告示第百十六號ヲ以テ虎列刺患者ノ入院ヲ許ス

東京府告示 第十九年七月二十六日  
日本橋區坂本町東京府臨時病院分院へ當分虎列刺病患者ヲモ入院セシム

東京府坂本町臨時病院へ虎列刺患者ヲ入院セシム  
十九年十一月東京府告示第百十四號ヲ以テ臨時病院分院ヲ廢ス

東京府告示 第十九年八月七日  
駒込避病院本月七日ヨリ開院ス

東京府告示 第十九年八月十七日  
大久保避病院本月十七日ヨリ開院ス

東京府大久保避病院ヲ開院ス  
十九年十月東京府告示第百二號ヲ以テ開院ス

東京府芝區愛宕町二臨時病院第二分院ヲ設ク  
十九年十月東京府告示第百十四號ヲ以テ開院ス

東京府告示 第十九年八月二十九日  
芝區愛宕町一丁目四番地ニ當分東京府臨時病院第二分院ヲ設ケ虎列刺病ヲ除クノ外他ノ傳染病患者ヲ入院セシム  
東京府告示 第十九年九月九日  
避病院入院患者ニ付添看護ヲナサンコトヲ乞フ者ハ老幼ノ外一人限り之ヲ許シ食料トシテ一日金十錢ヲ給與ス

東京府告示 第十九年十月八日  
東京府臨時病院第二分院本月八日限り閉院虎列刺患者ノ外他ノ傳染病患者ハ同日ヨリ日本橋區坂本町東京府臨時病院分院へ入院セシム

東京府告示 第十九年十月二十九日  
大久保避病院本日閉院ス  
但殘務ノ儀ハ日本橋區坂本町東京府臨時病院分院ニ於テ取扱ハシム

東京府告示 第十九年十一月二日  
駒込避病院本日閉院ス  
但殘務ノ儀ハ當分同院ニ於テ取扱ハシム

東京府告示 第十九年十一月十五日  
本所區松代町三丁目十八番地ニ東京府本所病院ヲ置キ本月十六日ヨリ傳染病患者ヲ入院セシム

東京府本所松代町ニ東京府本所病院ヲ置ク

東京府駒込避病院ヲ閉院ス

東京府大久保避病院ヲ閉院ス

東京府臨時病院第二分院ヲ閉院ス

東京府避病院入院患者ニ付添看護ヲ許シ食料ヲ給與ス

東京府愛宕町東京府臨時病院坂本町同分院及本所避病院ヲ閉院ス

東京府告示 第十九号十一月十五日  
芝區愛宕町東京府臨時病院日本橋區坂本町同分院及本所避病院本月十五日限り閉院シ右分院在院患者ハ東京府本所病院へ入院セシム  
但殘務ハ當分各其病院ニ於テ取扱ハシム  
警視廳訓令 甲第十九号十一月十六日

芝區愛宕町東京府臨時病院日本橋區同分院及本所避病院ヲ本月十五日限り閉院シ本所區松代町三町目十八番地ニ東京府本所病院ヲ置キ本月十六日ヨリ傳染病患者ヲ入院セシムル旨東京府知事ヨリ通知アリ此旨心得ヘシ

開拓使事業報告抄録

明治十年九月日關後志國高嶋郡祝津村農家一棟ヲ燬シ假避病院トス

開拓使事業報告抄録

明治十年九月日關七重濱市井隔絶ノ家ヲ以テ假避病院トス

津輕郡福山字姥子澤舊倉番家ヲ以テ假避病院トス

開拓使事業報告抄録

明治十年十月日關札幌郡手稻村牧場内官舎ヲ假避病院トス

開拓使事業報告抄録

明治十年十月日關病勢漸ク滅スルヲ以テ祝津村避病院ヲ閉ツ

札幌本廳後志國高嶋郡祝津村ニ避病院ヲ假設ス

十年十月日關閉院ス

函館支廳七重濱外一箇所ニ避病院ヲ假設ス

十年十一月日關閉院ス

札幌本廳札幌郡手稻村ニ避病院ヲ假設ス

十年十一月日關閉院ス

函館支廳七重濱外一箇所ニ避病院ヲ假設ス

十年十一月日關閉院ス

札幌本廳祝津村避病院ヲ閉ツ

十年十一月日關閉院ス

函館支廳七重濱外一箇所ニ避病院ヲ假設ス

十年十一月日關閉院ス

札幌本廳札幌郡手稻村避病院ヲ閉ツ

十年十一月日關閉院ス

函館支廳七重濱外一箇所ニ避病院ヲ假設ス

十年十一月日關閉院ス

札幌本廳石狩國札幌區外六箇所ニ避病院ヲ假設ス

十二年十一月日關閉院ス

函館支廳山越郡社堂町外二箇所ニ避病院ヲ假設ス

十二年十一月日關閉院ス

札幌本廳各避病院ヲ廢ス

十二年十一月日關閉院ス

函館支廳山越郡社堂町外二箇所ニ避病院ヲ假設ス

十二年十一月日關閉院ス

札幌本廳各避病院ヲ廢ス

十二年十一月日關閉院ス

函館支廳山越郡社堂町外二箇所ニ避病院ヲ假設ス

十二年十一月日關閉院ス

札幌本廳各避病院ヲ廢ス

十二年十一月日關閉院ス

函館支廳山越郡社堂町外二箇所ニ避病院ヲ假設ス

十二年十一月日關閉院ス

開拓使事業報告抄録

明治十年十一月十九日虎列刺病勢稍衰ルニ由テ七重濱避病院ハ所有主ニ返シ金二十圓ヲ給シ其所有地中ノ建物悉皆付與ス臺町避病院及詰所ハ消毒法ヲ施シテ存置シ屍室厠房及物品ヲ燒棄ス

開拓使事業報告抄録

明治十年十一月日關手稻村避病院ヲ閉ツ

開拓使事業報告抄録

明治十二年七月日關石狩國札幌區圓山へ手稻村避病院ヲ移シ増築消毒所ヲ設ク又石狩國若生町札幌區對雁村後志國高島郡宇稻穗澤忍路郡忍路村美國郡小泊村膽振國室蘭郡「オハシナイ」六箇所ニ避病院及消毒所ヲ設ケ忍路村「オハシナイ」二箇所ハ各寺院一宇ヲ燬シ避病院トシ別ニ消毒所ヲ設ケス

開拓使事業報告抄録

明治十二年八月福山總社堂町ニ避病院ヲ置ク函館地方病者漸次增加重輕患者ヲ分ツ能ハス更ニ病室一棟ヲ函館臺町ニ築ク又避病院ヲ上磯郡茂邊地ニ假設ス

開拓使事業報告抄録

明治十二年十一月日關各避病院ヲ廢ス

根室縣達 十五年九月二十九日  
丙第十四號検査委員

虎列刺病撲滅之景況ニ付根室村字ヘンケム井避病院明二十日ヨリ閉鎖可致此旨相達候事

北海道廳函館支廳告示 第十九号九月十六日



避病院へ入院セシ患者ノ親戚其他ノ者ヲシテ付添看護ヲ爲サント欲スルトキハ老幼ヲ除キ單身檢疫官ニ申出許可ヲ受ヘシ  
右告示ス

北海道廳達 二十年二月二十五日

函館消毒所及附屬避病院保管ノ儀ハ自今其役所へ委任ス  
右相達ス

東京府布達 六年一月十七日

當府下ニ於テ病院取設候ニ付出格ノ思召ヲ以宮内省ヨリ金一萬圓下賜并侍醫佐藤少典醫始出張被仰付候旨今般同省ヨリ被相達候間下下ニ至迄御趣意厚可相心得就テハ不日建築開業ノ上ハ四民ノ無差別望ミノ者ハ普ク治療可受此段相達候事  
但病院地所ノ儀ハ差向八丁堀元德島邸跡ニ取建候事  
右之通り市在區區無洩可觸知者也

東京府届 六年一月八日

當府下ニ於テ病院取設候ニ付出格ノ思召ヲ以宮内省ヨリ此度金一萬圓下賜并侍醫佐藤少典醫出張被仰付候旨同省ヨリ去ル四日被相達候ニ付諸入費并施設ノ方法共篤ト取調候上追退可申上候得トモ場所ノ儀ハ少典醫見込ノ地八丁堀元德島邸跡ニ取設可申右ニ付先以府下へ別紙ノ通布告ニ及ヒ可申候間此段御届申上候也

東京府達 六年九月三日

先般府下病院八丁堀元德島邸跡へ建築可致旨相達置候處御詮議ノ次第有之此度第二大區四小區愛宕町二丁目元本多邸跡へ所換致候條此旨更ニ爲心得相達候事  
但建築開業ノ上ハ兼テ布達ノ通可相心得事

北海道廳前消毒所及附屬避病院保管方

東京府病院ヲ八丁堀元德島邸跡ニ建設ス

六年九月三日東京府達置外ヲ以テ更ニ愛宕町へ建設ス

東京府病院ヲ更ニ愛宕町元本多邸跡へ建設ス

十四年七月東京府布達甲第九十五號ヲ以テ廢止ス  
九年四月東京府布達甲第十二號ヲ以テ淺草橋内へ

第一分局ヲ設置ス

九年八月東京府布達甲第八十七號ヲ以テ深川四丁目野町へ第二分局ヲ設置ス

東京府病院ノ院規也

十四年七月東京府布達甲第九十五號ニ依テ增減ス

東京府達 七年五月二日  
先般相達置候府下病院愛宕町二丁目へ建築落成ニ付岩佐大侍醫其他醫員佐々木東洋ヲ始御雇醫師米國アシミート氏詰合五月七日ヨリ開業候間療治請度者并入院望之者ハ同所へ直ニ可申出此旨相達候事  
但規則書爲心得相達候得共解シ兼候儀モ有之候ハハ病院事務掛リへ可承合候事  
入院規則

- 一 入院ヲ請フ者ハ住所姓名職業年齢等ヲ詳記シ證人ヲ以事務局へ申出ヘシ
- 但證人ハ必ス印形ヲ持參ス可シ
- 一 證人ハ東京府下在籍ノ者タルヘシ若シ府下ニ證人ナキ時ハ其本縣出張所證書或ハ其住所ノ戸長押印ノ引請書ヲ以テ申出スヘシ
- 一 入院料ハ一周毎ニ事務局へ納ムヘシ
- 一 夜具食器持參ハ當人ノ望ニ任スヘシ
- 一看病人附添ハ當人ノ都合ニ因ルヘシ
- 一 入院料ヲ四等ニ分ツ
- 一等ハ一日金一圓
- 別室ヲ設ケ夜具器物賄等相當ニ取扱エ看護人或ハ小使一人ヲ附與ス
- 二等ハ一日金三十七錢五釐
- 一室ニ一人ヲ置キ相當ノ夜具器物ヲ附與ス時トシテ一室ニ二人ヲ置ク有ヘシ此等ノ患者ハ四人
- ニ看病人一人ヲ附シ若附添人アル者ハ其賄料ヲ納メシム別段自分看病人ヲ雇フ者ハ賄料ノ外ニ一
- 簡月ニ付金一圓ノ給料ヲ納メシム
- 三等ハ一日金三十一錢二釐五毛

- 一室ニ三四人ヲ入レ二室毎ニ看病人一人ヲ給ス
- 四等ハ一日金二十五錢
- 廣室ニ患者十餘人ヲ雜居セシメ一室ニ一看病人ヲ置キ起居妨ケナキ者ハ毎朝自席ヲ掃除シ喫飯ハ食堂ニ出テ食ス可シ諸器物ハ納合セ二人毎ニ一器物ヲ附與ス
- 病室規則
- 一藥用攝生等ハ一切醫員ノ命ニ背ク可ラス
- 一飯ハ定時刻ニ違フヘカラサル事
- 一大患者ハ此限ニ非ス
- 一廻診前ハ自席ヲ離ルヘカラス
- 一金銀其外大切ノ品所持スヘカラス
- 但無據者ハ品柄ト員數ヲ紙二枚ニ記シ一枚ハ事務局ノ割印ヲ受ケ自分ニ之ヲ所持シ一枚ハ品物ト共ニ事務局ニ預ケ受取候節所持ノ印紙ヲ返納スヘシ
- 一金銀貸借致ス間布事
- 一賭勝負ニ類似候儀一切禁止ノ事
- 一諸商人病室ヘ入ルヲ禁ス
- 一賄ノ外醫員ノ許可ヲ受スシテ何物タリトモ食ス可ラス
- 一喧嘩口論及ヒ放聲謠吟ヲ禁ス
- 一外出スルトキハ必ス當直醫員ニ告ケ其行先ハ事務局ニ届ケ置ヘシ
- 一藥用ノ外飲酒ヲ禁ス
- 一午後十時ヨリ高聲ニ談話ス可ラス
- 都合十二箇條ハ病室ヘ揭示ス可シ
- 外來患者診察ハ毎日午後一時ヨリ三時迄ノ事

同藥價

- 水藥一日分 金五錢
- 丸藥散藥一日分 金三錢五釐
- 外用藥一劑 金四錢
- 膏藥一貝 金一錢七釐
- 點眼水 金二錢五釐
- 但藥瓶器類ハ定價ノ外ナリ
- 應招診察ノ規則
- 一外出診察ハ急病或ハ重病ニ限ルヘシ
- 一外出診察ヲ請フ者ハ大小區名町名番地姓名ヲ詳記シ事務局ヘ申し出ヘシ
- 一車代ハ先方ニテ拂フヘシ診察料ハ無用タルヘシ
- 一喫飯時刻ナレハ有合品ヲ以テ飯ヲ出スヘシ
- 一決シテ酒ヲ出ス可ラス假令之ヲ出ストモ醫員用フヘカラス
- 一府外ハ招ニ應セサル事

東京府布達 甲午年四月二十四日

第一大區十二小區淺草橋內東京府病院第一分局建築落成ニ付來ル五月二日開業同日ヨリ外科教師英國

淺草橋內ニ東京府病院第一分局ヲ建設ス

十三年六月東京府布達甲

人マンニシク氏初ノ醫員詰合内外科共治療爲致候此旨布達候事

東京府布達 甲第九年八月二十五日

第六大區三小區深川西平野町へ本府病院第二假分局設置來ル二十八日開院同日ヨリ醫員詰合内外諸科トモ治療爲致候條此旨布達候事

東京府布達 甲第十三年六月二十九日

東京府病院第一分局并ニ同第二分局本月二十日限り廢止候條此旨布達候事

東京府布達 甲第十三年七月一日

東京府病院ニ於テ一般患者治療致來候處本日ヨリ貧困ノ患者ニ限り施療セシメ候條此旨布達候事

東京府布達 甲第十四年七月十二日

東京府病院本月三十一日限り廢止候條此旨布達候事

警視廳達 第七年十月十五日

巡查病氣ノ者入院中規則別紙之通相定候條此旨相達候事

(別紙)

巡查入院規則

第一條 飲食服藥攝生等總テ醫員ノ指揮ヲ確守スヘキ事

第二條 禁酒ハ勿論總テ私ノ嗜好ヲ以テ飲食物ヲ調ヘシメ候儀禁止ノ事

第六十八號ヲ以テ第一分局ヲ廢ス

東京府病院第二假分局ヲ深川西平野町ニ設置ス

十三年六月東京府布達甲第六十八號ヲ以テ病院第二分局ヲ廢ス

東京府病院第一分局第一分局廢止

東京府病院貧困ノ患者ニ限り施療セシム

十三年八月東京府布達甲第九十一號廢療券發行規則ヲ修正スヘシ醫事ノ日ニ載ス

東京府病院ヲ廢止ス

警視廳巡查入院規則

八年十月警視廳達文第百二十四號ニ依テ消滅ス

八年五月警視廳達規第七百九十號ヲ以テ第十五條ヲ追加ス

但醫員ノ許諾ヲ得ルハ此限ニアラス

第三條 親戚朋友等ノ贈遺ニ係ルモ飲食物ハ必醫員ノ検査ヲ受ケ其指揮ニ從フヘキ事

第四條 病室ハ勿論廁圍浴室等専ラ清潔ナランコトヲ要スヘキ事

第五條 高聲談論并騒カシキ舉動致間敷事

第六條 火ノ元大切ニ注意スヘキ事

第七條 金錢其他大切ノ物品ハ私ニ貯ヘ置クヲ禁ス必病院諸務掛ヘ預ケ置クヘキ事

第八條 患者相互ニ金錢貸借禁止ノ事

第九條 看護人并小使等ヘ私ニ院外ノ使用ヲ命シ候儀禁止ノ事

但不得已事故アリテ他人ヲ雇ヒ之ヲ辨スルハ此限ニアラス

第十條 公私用ヲ論セス病室ニ於テ他人ニ應接スルトキハ必當直醫員ヘ可届出事

但夜中ハ猥ニ他ノ應接ヲ禁ス其不得已事情アルハ當直醫員ノ許可ヲ得ヘシ

第十一條 病症ニヨリ步行運動ヲ要スルハ醫員ノ見込ヲ以テ本廳病院掛ヘ報告シ長官ノ許可ヲ乞ヒ病院ニ於テ外出免許證書ヲ渡スヘキ事

第十二條 免許ヲ得テ外出スル者步行運動ハ三町四方ヲ限り其時間ハ二時ヲ限リトス尤他所ニ於テ飲食候儀禁止ノ事

但出入毎ニ當直醫員ニ報告スヘシ

第十三條 院内ニ在テハ角袖着用ヲ許スト雖外出ノ節之ヲ用フルヲ禁ス尤病症ニ依リ角袖ヲ要スルハ

醫員ノ見込ヲ以テ第十一條ノ順序ヲ以テ免許證書ヲ渡スヘシ

第十四條 賄料ハ一日金十二錢五釐ノ割ヲ以テ毎月十八日病院諸務掛ヘ可相納事

但入院退院ノ當日賄ハ其度數ヲ算シ賄料ヲ納ムヘシ

(參考)

内閣記録局ヨリ警視廳ヘ照會二十三年十二月二十三日  
警視病院創設ノ年月日承知致度且違等有之候ハハ一通御送付有之度此段及御依頼候也

七年十月警視廳達規第七號ヲ以テ第十一條ヲ修正ス

